

地域包括ケアネットワーク No.39

高梁市在宅医療・介護連携推進事業

高梁医師会 野村 良明

高梁市は、市制でなくなるかもしれない市として全国上位に位置付けられています。平成17年の合併当時37,000人であった人口が平成26年には32,000人にまで減少し、高齢化率は37%にも及び一部の地域では50%を超えています。寝たきり高齢者、動ける認知症高齢者は何れも約1,000人に及んでいます。そのうえ高梁市は面積が広い。

平成25年、国の事業である「在宅医療連携拠点事業」を実行するため、平成24年から高梁地域医療ミーティング推進協議会と銘打って高梁市とともに検討を開始しました。多職種連携の1つの手段として、晴れやかネットの拡張機能を用いた「やまぼうし」を立ち上げ、行政、病院、在宅医師、薬剤師、訪問看護、ケアマネ、介護職、介護施設などの円滑な情報交換を行っています。また、年に数回これらの職種の方に実際に集まっていただき、顔の見える関係をつくとともに意見交換会を開催することで現場の声を取り入れています。さらに、在宅と入院との移行時にも活用しています。一方、多職種でこのような事業をしていることの普及啓発も不可欠であり、市主催の市民フォーラム、ミニデイサービスでの公演、ケーブルテレビの活用、また医師、看護師あるいはケアマネの訪問時の様子をDVD化し一助としています。

市のアンケート調査では、在宅療養ボランティアにかかわってみたいという人は、10から15%に及んでいるようです。地域の民生委員や愛育委員をはじめとした多くの市民の協力なくして、特に過疎のすすんだこの地域では安心して暮らすことは不可能です。但し、特別養護老人ホームへの入所が要介護3以上に限定されたことで、介護力の小さなこの地域では、自宅での生活に困難を強いられる方がさらに増えることが予想されます。これは身体に障害のある方のみでなく認知症を有する方も同じことです。

訪問看護は、この在宅療養において大きな役割を担っています。高梁市内に訪問看護ステーションは3カ所ありますがそれぞれ規模が小さく、単独では24時間365日対応が困難です。そこで、お互いに補完することでこれに対応しようという試みを始めていますが、看護師の絶対数が不足しています。さらに、在宅にかかわっている医師の高齢化という問題もあり、前途多難です。この活動は始まったばかりで、今後も厳しい状況は続くものと思っています。

最後に、国の目指す社会保障費削減という大前提があるうえでの地域包括ケアネットワーク構築には、限界があるように思えてなりません。予算が必要です。これまで幾度となく経験した「梯子はずし」がなければよいのですが。